

畏れることの大切さ

おかげさまで、皆様のご協力により、七月末に本堂・客殿・山門の復興工事が竣工し、引き渡しを受けました。改めまして、深く感謝いたし厚くお礼を申し上げます。

さて、この一年間、工事を間近に見ながら、いろいろとたくさん勉強させていただきました。特に本堂そのものの形だけでなく、細部の意匠の中にも様々な意味が込められていることが初めて実感できました。

特に鬼瓦ですが、今までは大屋根の大棟の両端に乗せてある雄雌一对の大棟鬼しか意識しませんでした。降鬼・隅鬼・二の鬼と数えれば十四匹の鬼に護られていることになります。それぞれが、阿吽あうんの口の形をした雄雌の対になっており、四方を睨んでおります。工事の途中、足場に上り間近に鬼を眺めてその意味をいろいろ考えました。特に思ったのは、沖縄のシーサーのことです。それはここ十数年、修学旅行の引率で沖縄に何度もまいりまして、いたるところで屋根の上の雄雌一对の獅子の形をしたシーサーをいつも目にしておりました。その光景には最初の頃はなにかしら物珍しさと違和感がありました。中国の影響が根底にあるにせよ沖縄の宗教観は歴史的に独自性を強く持っていますので、シーサーの役割は単なる装飾ということ

ではなく大変重要です。目に見える合理的な世界だけが現実でなく、目に見えないものの存在からの災いに対して備えなくてはならないという主張がストレートに伝わってくるのが沖縄の風土です。豊かな自然が身近にあるからこそともいえるかもしれませぬ。それは、私たちが日頃忘れがちな大自然に対する畏れ、つまり畏敬の念の象徴であるとも考えられます。

鬼瓦にも様々な種類があります。鬼が怖い顔で睨むのはよくないと福槌・宝珠・雲・植物を凶象化したものが作られるようになり、寺院建築では経の巻型の鬼瓦が使用されるようになりました。この度、鬼面の鬼瓦にしたのは前の本堂が鬼面であつたということから決めたのですが、震災の時、幸いにして倒壊を免れ御本尊をはじめ諸仏像・莊嚴・什物が難を逃れたことがよくよく考えると、前の本堂の屋根に乗つていた鬼面の鬼瓦の加護があつたのだとの感謝の念を新たにいたしました。新しい鬼瓦が新しい本堂を災いから護つてくれることを念じると共に、人間の自然に対する思い上がりいましを誠め、畏敬の念の象徴として新しい鬼瓦も怖い顔の鬼面いましでよかつたとの思いを新たにいたしました。

そこで震災で前の本堂を倒壊から免れさせてくれた大棟鬼を山門から境内に入つて正面のところに飾ることにいたしました。二百八十年余の長きにわたつての大棟での役割を終え、今度は畏れることの大切さを参詣された方々に無言でお伝えしてけると存じます。